

不法の者についての警告（テサロニケの信徒への手紙二 2：1～12）

さて、兄弟たち、わたしたちの主イエス・キリストが来られることと、そのみもとにわたしたちが集められることについてお願いしたい（お願いします）。2 霊や言葉によって、あるいは、わたしたちから書き送られたという手紙によって、主の日は既に来ってしまったかのように言う者がいても、**すぐに動揺して分別を無くしたり、慌てふためいたりしないでほしい。**3 だれがどのような手段を用いても、**だまされてはいけません。**なぜなら、まず、**神に対する反逆が起こり、不法の者、**つまり、滅びの子が出現しなければならないからです。4 この者は、**すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して、傲慢にふるまい、ついには、神殿に座り込み、自分こそは神であると宣言する**のです。5 まだわたしがあなたがたのもとにいたとき、これらのことを繰り返し語っていたのを思い出しませんか。6 今、彼を抑えているものがあることは、あなたがたも知っているとおりです。それは、定められた時に彼が現れるためなのです。7 不法の秘密の力は既に働いています。**ただそれは、今のところ抑えている者が、取り除かれるまでのことです。**8 **その時が来ると、不法の者が現れますが、主イエスは彼を御自分の口から吐く息で殺し、来られるときの御姿の輝かしい光で滅ぼしてしまわれます。**9 **不法の者は、サタンの働きによって現れ、あらゆる偽りの奇跡としるしと不思議な業を行い、**10 **そして、あらゆる不義を用いて、滅びていく人々を欺くのです。**彼らが滅びるのは、自分たちの救いとなる真理を愛そうとしなかったからです。11 それで、神は彼らに惑わす力を送られ、その人たちは偽りを信じるようになります。12 こうして、**真理を信じないで不義を喜んでいた者は皆、裁かれる**のです。

「惑わされず、主の日を待ち望め」

皆さん、本日は、テサロニケの信徒への手紙二 2 章から、「主の日」に関する大切な警告と励ましを共に学びたいと思います。

初代教会の人々は、主イエスの再臨を心から待ち望んでいました。しかし、「主の日はすでに来た」とする偽りの教えが入り込み、信徒たちは混乱し、不安に陥っていました。そこでパウロは、「**すぐに動揺して分別を失ってはならない**」「**誰にも騙されてはならない**」と語ります。なぜなら、主の日の前には明確な兆しがあるからです。

② 第一の兆しは「神に対する反逆」、すなわち大きな背教。そして、② 第二の兆しは「不法の者」、つまり「滅びの子」が現れることです。彼は神を冒瀆し、自らを神とし、神殿に座するという極めて傲慢な存在です。これは終末におけるサタンの勢力の頂点とも言える姿です。

しかし、恐れる必要はありません。パウロは、「**主イエスは彼を御自分の口から吐く息で殺し、その輝かしい光で滅ぼす**」と語ります。**悪がどれほど力を振るおうとも、最終的な勝利は主にある**のです。

問題は、私たちがその時代にどう生きるかです。不法の者は、「偽りの奇跡やしるし」をもって人々を惑わします。そして、「**真理を愛そうとしなかった者**」が、その欺きに陥っていくのです。ここで強調されているのは、「**真理を愛する**」という姿勢です。単に知識として**真理**を知るだけでなく、**それを愛し、従い、生きることが求められています。**

信仰とは、揺れ動く情報や状況の中でも、確かな土台に立ち続けることです。たとえ時代が混乱しても、終末の出来事が迫っても、**主の御言葉に根ざして歩む者は、決して惑わされることはありません。**

今、私たちがなすべきことは、「主の日が来たかどうか」に振り回されることなく、日々の歩みの中で、主を愛し、真理を愛し、光の中を歩むことです。そして、やがて来られる主を希望と確信をもって待ち望みましょう。